

その25 片鉾

(平成10年5月1日号—第194号)

本市が昭和62年に発行した『枚方風土記』には、片鉾にまつわる伝説が幾つか紹介されています。

その一つによると、その昔、桓武天皇が弁当を食べられたときに使った杉のはしを地面に刺したところ、それが根づいて杉になったとされ、片鉾にある「杉ヶ本神社」は、その杉のもとという意味で、名づけられたとされています。



42 杉ヶ本神社(片鉾本町)



43 郊祀壇の説明板
(杉ヶ本神社)

境内の入口には、「片鉾郊祀壇[こうしだん]跡伝承地」の立て札もあります。この郊祀壇は、都の外で祭祀を行うためにつくられるもので、桓武天皇が、長岡京遷都をなし得たのは、天の恵みによるものとして、この地に郊祀壇をつくり、感謝の祭典を行ったとされています。

また、境内の傍らにはひっそりと、阿皆[あか]神社と呼ばれるほこらがたたずんでいます。このほこらは、片鉾ではやり病が広がったときに、旅の僧侶が阿弥陀仏を1カ所に集めて祭れば治ると教えたことから、それに従ったところ、病が治まったという話が残っています。

現在、境内には、伝説の杉はありませんが、別の杉が大きく育ち、子どもたちの格好の遊び場となっています。このように伝説が多い片鉾地域ですが、今ひととき目立つ近代的な建物があります。関西外国語大学の学舎です^{*1}。同大学では、毎年数百名の学生をアメリカ合衆国をはじめとする海外へ派遣する一方、海外からも多くの留学生を受け入れています。留学生は、一般家庭の協力を得てホームステイをしており、日常生活に溶け込んで国際文化交流を実践しています。

伝説を訪ね、また、新たな出会いを求めて、片鉾の町中を散策してみてもはいかがでしょうか。

^{*1} 関西外国語大学は、平成14年に中宮キャンパス(中宮東之町)へ移転し、平成17年に輝きプラザきらら・枚方市立中央図書館が開館した。